一般入試前期A日程　2日目

数学

Ⅰ

■出題のねらい

連立不等式，三角関数，場合の数などの項目について，基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

総じてよくできていました。

4問中，（3）の正答率が低かったです。途中の計算ミスは，落ち着いて確認すれば防ぐことができます。解答の見直しを心掛けてください。

Ⅱ

■出題のねらい

数列，ベクトルに関する基本的な事項を問いました。

■採点講評

（1），（2）を通して完答率が高かったです。

（1）　空所［ア］，［イ］，［ウ］はよくできていましたが，空所［エ］で一般項の計算ミスが目立ちました。また，空所［イ］のみを間違えた解答がありました。

（2）　空所［オ］，［カ］はよくできていました。空所［キ］で計算ミスが散見されましたが，全体的によくできていました。

Ⅲ

■出題のねらい

直線の方程式と求積および三角関数の極限に関する基本的な事項を問いました。

■採点講評

（1） ほぼ全員が正答できていました。正答できなかった人は，このような基本的な問題を確実に正答できるよう心掛けましょう。

（2） 面積を求める際は，できるだけ図形を描き交点の座標等を確認してから計算に取り掛かりましょう。この問題も比較的よくできていました。

（3） $\cos k$ は定数であるので x で微分すれば 0 となります。$-\sin k$ と解答している誤答がいくつか見受けられましたが，全体的にはこの問題も比較的よくできていました。

（4） 三角関数の極限の基本公式を用いる応用問題です。誤答としては（2），（3）の結果を用いるので間違いの積み重なりによるものが目立ちました。

Ⅳ

■出題のねらい

指数関数に関する微分，積分について，基本的な事項を問いました。

■採点講評

総じてよくできていました。

（1） $f(0)$ の値はよくできていましたが，極限の取り扱い，特に∞やlimの記号の使い方が不適切である解答が目立ちました。

（2） 商の微分計算はよくできていましたが，式を整える時の計算ミスが目立ちました。

（3） よくできていました。

（4） 「$e^{\log k} = k$」の変形ができていない解答が目立ちました。また，$\log 2$ を忘れている人も多かったです。

V

■出題のねらい

対数の基礎に関する理解度および基本的な計算力を問いました。

■採点講評

（1） よくできていましたが，$\log_3 x$ や$\log_3 3$ を残した解答がありました。問題文をよく読み，要求されていることに正確に答えてください。

（2） 概ねよくできていました。ただし，計算ミスなどによって，点数に大きく差がつきました。日頃から正確な式変形，注意深い計算を心掛けてください。

VI

■出題のねらい

絶対値を含む2次関数について，基本計算，最小値，直線との交点，定積分を問いました。

■採点講評

（1） よくできていました。

（2） 多くの人ができていました。一方で，絶対値に関して場合分けに失敗している解答が少なからずありました。場合分けが必要になる理由を把握したうえで，十分な練習を積んでください。

（3） グラフが正確に書けた人の多くが正答できていました。$x>0$ のみ，または $x \leqq 0$ のみに関して解答したものが複数ありました。グラフを利用して解答の見通しを立て，見落としやミスを防ぐ練習も重要です。

（4） 定積分の式を導出する際に，絶対値に関して不正確な場合分けをしている解答が少なからずありました。解答にたどりついた人も多くいましたが，計算ミス，転記ミスによって減点対象になった解答も多くありました。落ち着いて導出し，確認を怠らないようにしましょう。

物理

I

■出題のねらい

等加速度運動での力と加速度の関係，速度と位置エネルギーの関係を理解しているか，エネルギー保存則から運動の様子を理解する考察力があるかを問いました。

■採点講評

前半部分の固定された斜面上での問題は，よくできていました。作用・反作用の記述もよくできていました。数式を処理して解答する問題の正答率は約50％でした。斜面が動く場合は，取り扱いが複雑そうですが，条件を整理すれば，斜面が固定された場合と同様に運動の様子が理解できます。前半部分と後半部分が関連していることを理解している人は，全体を通してよくできていました。

空所［ア］～［エ］は，教科書にもよく出てくる斜面上の問題です。力と加速度を混同している人が多く見受けられました。また，sinとcosを間違えるミスもありました。このようなケアレスミスは大きな痛手となりますので注意しましょう。θが0の場合を考えるとそのようなミスは防ぐことができます。1）は，よくできていました。v_xとv_yから求めることが後半部分の論理につながります。ここでは，斜面に沿った速度から考えても正答としました。2），3）は，同じ問いかけをしているので，解答も類似した数式になるはずです。複雑に考えすぎたのか，そのように示されていない解答が多く見受けられました。問題文をよく読んでください。4），5）がこの問題全体の重要な論理です。計算は，よくできていました。後半部分の9）につながるので，論理を理解してください。5）で，斜め方向の力をもちだしたのでは意味がありません。6）は，よくできていました。作用・反作用の法則は，力の向きが反対であることを述べる必要があります。7）は，問題文の直前部分に注意すれば，容易に示せますが，運動量保存の法則によっても求められます。8）は，幾何学的に考えれば求められます。それぞれ独立した問題ですので，全体の理解度とは関係なく正答できた人が多かったです。9）は，問題文の意図を読み取れれば，単に数式を処理するだけで正答できました。逆に前半部分がよくできていても，9），10）ができていない人がいました。物理は，基本的な事項から論理を組み立てて，新たな知見を導くものです。普段の勉強からそのような練習をしておきましょう。

Ⅱ

■出題のねらい

電磁気学において磁場によって生じる現象の問題です。前半部分はコイルを利用した電磁誘導，後半部分はローレンツ力とサイクロトロン加速器の原理です。式の導出に加えて，グラフの読み取りと記述による定性的な理解も問いました。

■採点講評

（1）は，磁場中のコイルに生じる電磁誘導の問題です。2），3）の磁束の計算では，コイルの断面積（円の面積）と磁束密度の時間変化の量=B_0/Tを扱えていない解答が多かったです。5）は，磁束密度の時間変化をグラフから読み取る問題ですが，正答率は低かったです。特に$t=2T\sim4T$の区間の値を$-V_0$とする誤答が多かったです。

（2）は，さまざまな分野で応用されているサイクロトロン加速器の仕組みを問いました。原理は難しくなく，電位差による仕事とローレンツ力の理解が含まれます。この問題では，名称を問う問題を除くと，9），12）がよくできていました。ローレンツ力と等速円運動を結びつける部分です。6）は，仕事と運動エネルギーの関係ですが，あまりできていませんでした。8）の記述では，粒子にはたらく力の向きと運動方向（速度）が直交することを説明する必要があります。最初から円運動を仮定する解答が多くありました。ここは，ローレンツ力の理解に重要な部分です。10）は，9）がヒントになっていましたが，9）を活用できていない解答が多かったです。一周分の時間を解答したものもありました。11）の正答率は，低かったです。粒子が仕事をして加速できるのは，左右の電極間を移動する間のみであることに気づくと，P_2からP_3は2回目の仕事であることがわかります。2倍や4倍などの誤答が多くありました。

全体的にみると，ローレンツ力と円運動の式をつなげる部分はよくできていました。一方，磁束の計算と起電力の導出は不慣れなようで，教科書の公式をそのまま記す解答がありました。また，ローレンツ力の特徴の記述や磁束密度の変化を読み取るような定性的な問題の正答率も低かったです。公式が示す物理的な意味を捉えたうえで，自ら説明や解釈ができるように練習してください。

Ⅲ

■出題のねらい

熱気球を題材として，理想気体の性質と状態方程式についての理解度をみました。

■採点講評

前半部分はよくできていましたが，全体的に正答率があまりよくありませんでした。見慣れない問題であったかもしれませんが，理想気体の状態方程式の取り扱いについての基本的な内容を含んでいます。しっかり学習しておいてください。

まず，空所［ア］～［エ］の問題は，よくできていました。中でも空所［ア］，［イ］は，最も基本的な内容です。教科書でよく確認しておいてください。空所［ウ］は，空気1 molあたりの質量をm_0としているので，直ちに$m_0 n$と求まります。また，空所［エ］は，一連の数式を用いると導出できますが，計算間違いが多く見受けられました。1）は，比較的よくできていました。ここでは，Tの増加に対して，ρが小さくなるといった説明がされていれば正答としました。2）は，pが一定で$\rho_0 T_0 = \rho T$の関係を導き出せるかが重要です。空所［オ］は，2）で得られたρの式をρVに代入すれば求まります。空所［カ］は，浮力の内容を問う問題のため難しいのではないかと懸念していましたが，よくできていました。3）は，グラフを正確に描けている受験者がほとんどいませんでした。この問題では，（T_f, f）の点を通り，Tの増加とともに減少するようなグラフの概形が描かれていれば正答としました。数式を用いて物理現象を捉えることは重要ですが，グラフや図で表すと，さらに深く内容を理解できます。日頃から，このような学習方法を心掛けてください。4）では，Tの増加とともにρが減少する，あるいは，Fが減少するといった説明が重要です。そのうえで，Fとfの大小関係から気球が浮上する理由を述べる必要があります。説明なく，単にFとfを比べただけの解答は不正答としました。さらに，Tが増加するとfが増すためといった誤答も見受けられました。5），6）は，ともに低い正答率でした。

化学

Ⅰ

■出題のねらい

コロイドの実験を題材にして，化学反応やコロイドの諸性質を正しく理解できているか。また，ファントホッフの法則を用いてモル質量を導出できるかを問いました。

■採点講評

正答率は約40%と低かったです。（１），（２）の化学反応式を書く問題は，正答率が高くなると予想しましたが，あまり高くありませんでした。水酸化鉄（Ⅲ）コロイドを作製する反応のうち，出発物質の塩化鉄（Ⅲ）と生成物の水酸化鉄（Ⅲ）が問題文に書かれていますが，塩化鉄（Ⅲ）に作用させる物質は書かれていません。多くの受験者は，この作用させる物質が水であるとわかったようでした。しかし，塩化鉄（Ⅲ）の化学式が書けていない誤答が見受けられました。$FeCl_2$，FeCl（Ⅲ），Fe_3Cl，Cl_3Feと解答したものや係数の間違いも多く見受けられました。物質の化学式を正しく覚えることや化学反応式の左辺と右辺の原子の数を揃えることは化学の基本です。受験までに身に付けておきましょう。（２）の問題は，硝酸銀水溶液による塩化物イオンの確認反応でしたが，ほとんどの人ができていませんでした。多くの受験者は，この反応を知っていると思いますが，問題が実験操作から出題されているため，混乱したようです。硝酸銀は透析で出てきた塩化物イオンの確認に使用しています。塩化物イオンのカウンターイオンは，H^+です。誤答には，塩化鉄（Ⅲ）と銀イオンとの化学反応式がみられました。実験の操作を正しく理解していれば，このような解答を書くことはありません。

（３），（７）の選択問題は，よくできていました。しかし，番号で解答を要求しているにもかかわらず，マヨネーズなどの名称を解答する受験者が多く見受けられました。ケアレスミスをなくすように心掛けましょう。

（４）の計算問題は，ほとんどの人ができていませんでした。１）の問題は，濃度と化学量論を組み合わせた問題です。少し複雑ですが，理系分野を目指すなら解いて欲しいものです。チンダル現象やブラウン運動に代表されるコロイドの性質の名称を解答する（５）は，よくできていました。それに対して，（６），（８）の選択問題はあまりできていませんでした。これらの問題はわからなくても，よく考えると正答が類推できます。例えば，（８）の選択肢①“コロイド粒子の直径は，約10^{-5}～10^{-3}mである。”です。10^{-3}mは１mmです。通常使用される物差しの最小目盛は１mmです。十分に目視することができます。このように，目で識別できる粒子はコロイドではありません。

Ⅱ

■出題のねらい

固体の結晶を題材として，結合の性質や単位格子について問いました。

■採点講評

基本的な問題でしたが，誤答も多く見受けられました。

（1）は，比較的よくできていました。しかし，ii・iiiの解答に間違いが多く見受けられました。（2）は，1つだけ正答している解答や3つ選んでいる解答がほとんどでした。特に，⑤ドライアイスを選んでいる解答が多く見受けられました。（3）は，イ・ウの解答に間違いが多く見受けられました。文章中に“イやウのような分子間にはたらく力や結合を分子間力という。”と記載されているにもかかわらず，イ・ウを“分子間力”とした解答が多く見受けられました。問題文は，最後まで丁寧に読んでください。（4）1）は，よくできていました。2）は，ほとんどの人が間違っていました。空白の解答も多く見受けられました。基本的な問題ですので，しっかりと学習してください。3）は，比較的よくできていました。2）が間違っているにもかかわらず，正答している受験者も多く見受けられました。

Ⅲ

■出題のねらい

アルコール，エーテル，アルデヒドやケトンといった含酸素有機化合物について，基本的な知識を問いました。

■採点講評

全体を通じて正答率はあまり高くありませんでした。

〔1〕は，アルコールとエーテルを題材にした基本的な知識を問う問題でした。（1）では，アルコールとエーテルとの関係を問いましたが，正答率が低く，“幾何”や“鏡像”といった誤答が散見されました。（2）は，異性体の数を問いましたが，正答率は低かったです。（3）は，アルコールとエーテルの性質について問いました。アルコールの性質を理解している人には易しかったと思いますが，正答率はあまり高くありませんでした。（4）は，第三級アルコールの名称と構造式を問いました。正答率は低くありませんでしたが，“1－ブタノールの異性体”や“第三級アルコール”というヒントがあるにもかかわらず，芳香族化合物等の誤答が散見されました。問題文をよく読めばこのような間違いは防ぐことができます。

〔2〕は，アルデヒドとケトンに関して基本的な知識を問いました。（5）は，反応で生成する二種類の化合物**B**と**C**について名称と構造式を問いましたが，正答率が非常に低かったです。問題に記載されている反応式において，**B**と**C**いずれも“アルデヒドまたはケトン”であると示唆していましたが，それ以外の化合物の誤答が散見されました。（6）は，**B**と**C**に関する化学反応式を問いましたが，（5）の正答率が低かったこともあり，この問題の正答率も低かったです。（7）は，有機化合物を同定する基本的な反応での生成物を問う問題ですが，正答率は高かったです。（8）は，反応によって**B**と**C**を与えるアルケン**A**の名称と構造式を問いました。正答率は低く，**B**と**C**を正答しているにもかかわらず**A**の構造を間違えている解答が見受けられました。

全体を通して，化合物名を答えているにもかかわらず，構造式が書けていない解答が見受けられました。化合物名と構造式はセットで暗記しておいてください。

いずれも有機化学の基本的な知識があれば解ける問題です。誤答の多くは，ケアレスミスに起因すると思われます。落ち着いて見直す習慣をつけてください。

一般入試前期A日程　2日目

生物

本学の生物の入試問題は，教科書の内容を順守し作成しています。まずは教科書の内容をしっかり勉強し，理解することが重要です。教科書の図版の内容や「探究」といった項目も出題の対象であり，それをさまざまな形でアレンジしたものも出題されることが多いです。丸暗記を避け，さまざまな視点から考えるようにしておきましょう。
A日程２日目では，「光合成」，「生存曲線」，「種の多様性」，「DNAと遺伝子操作」，「タンパク質」をテーマに出題しました。

Ⅰ

■出題のねらい

（1），（2）いずれも光合成の問題です。光合成に関する種々の反応と葉緑体内の構造について問いました。（3）は，生存曲線の問題です。生存曲線の特徴に関する問題とそれに関する計算問題を出題しました。（4）は，相対優占度の図から，種の多様性について考える問題です。多様性の特徴と植生を結びつけるところがやや難しかったようです。

■採点講評

正答率は，約55％でした。（1），（2）は，テーマが火星のため，とまどった人が多かったかもしれませんが，内容は光合成に関する問題でした。（1）は，C_4植物に関する少し発展的な内容が含まれていたためか，全体的に正答率が低かったです。光合成を行う植物は大きくC_3植物とC_4植物，CAM植物に分けられます。今回取り上げたC_4植物は，トウモロコシやサトウキビなど，光の強いところで育つ植物が多く含まれます。一方で，CAM植物は，ベンケイソウ，サボテンなど乾燥に強い植物が含まれます。今回は，このC_4植物とCAM植物を混同した解答が多く見受けられました。特に，オキサロ酢酸とリンゴ酸はどちらもC_4化合物なので紛らわしかったようです。CO_2の取り込みで最初に合成されるのはオキサロ酢酸ですので，注意してください。C_4植物やCAM植物は，教科書では「参考」などの項目で説明されることが多いですが，出題範囲に含まれますので，しっかりと学習する必要があります。（2）では，人工光合成を取り上げましたが，内容は植物における光合成反応です。全体的に正答率が高かったです。空欄 11 は，正答率が低かったです。人名に関する問題は，生物の試験では頻出です。しっかり整理しておきましょう。

（3）は，全体的に正答率が高かったです。容易な計算が必要な問題でしたが，よくできていました。ただ，３）は，正答率が低かったです。個体が死亡する際の年齢を死

亡率で比例配分するのが最も正確ですが，個体の大部分は０～１歳で死亡（死亡年齢としては0.5歳で計算）しているので，それに近い0.6歳を解答として選ぶ方法もありました。

（４）は，優占度に関するグラフを読み解き，照葉樹林などの植生に結びつけて考える問題で，よくできていました。データ解釈，計算問題は，ほぼ必ず出題されます。苦手意識のある人は，演習問題を解いて対策をしましょう。

Ⅱ

■出題のねらい

（１）は，遺伝情報の発現にかかわる用語と概念について，基本的知識を問いました。（２）では，遺伝子操作に関する用語，制限酵素と遺伝子増幅に関する実験考察と計算問題を出題しました。（３）は，タンパク質の名称とその特徴を関連付ける基本的な問題でした。

■採点講評

正答率は，約55％でした。（１）穴埋め問題の正答率は高かったです。空欄 31 は，転写調節にかかわる仕組みとして“①オペレーター”を誤ったものとして選んだ解答が多く見受けられました。“①オペレーター”をはじめとする原核生物の転写制御のメカニズムは，真核生物のそれと同じくらい重要なテーマです。しっかり学習しておきましょう。

（２）の穴埋め問題も同様に高い正答率でした。２）の制限酵素でDNAを処理した際の電気泳動のパターンを解答する問題は，正答率が低かったです。DNAの電気泳動は，生物学の実験としてはほぼ必須です。この問題では，完全に切断と半数程度切断という２パターンがあったため，教科書などの例より難しくなっていました。完全に切断すると250塩基対に相当するバンドしか出なくなります。不完全な切断の場合，３カ所ある切断部位の一部しか切断されないので，250塩基対以外のバンドも出現することがポイントです。空欄 40 のDNA増幅に関する計算問題も正答率が低かったですが，こちらは30回増幅する（倍になる）ことを繰り返すので，結果が $2^{30}=(2^{10})^3 \fallingdotseq 1.0\times10^9$ となります。

（３）は，比較的高い正答率でしたが，空欄 43 の正答率が低かったです。細胞膜の基本的な構成成分であるリン脂質や膜タンパク質の知識は，生物学の基本です。深く理解しておきましょう。

英語

Ⅰ

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。二者のやりとりの流れを的確にとらえましょう。話題は「展覧会への誘い」です。どんな内容の展覧会なのか，また，アーティストはどのような作風の人なのかを正確に把握しましょう。

■採点講評

どの問題も正答率は比較的高かったです。特に［ 1 ］，［ 3 ］は70％以上でした。ただし，完答の人は16％でした。正答率が約50％の［ 5 ］は，会話の最後の３行を正確に読み解くことで正答が得られますが，その内容に注意が払えなかった人は，選択肢②を選んでいました。

Ⅱ

■出題のねらい

盲導犬（guide dog）になる予定の子犬を飼育するボランティアを募集する案内文を読み，ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。FAQ（Frequently Asked Questions［よく尋ねられる質問］）の形式でまとめられているため，どこにどのような情報が記載されているか，見分けるのが比較的容易です。語彙や文法も基本的な内容ですので，ボランティアの資格・条件について正確に把握することがポイントです。

■採点講評

正答率が70％を超えていた［ 1 ］，［ 2 ］に対して，残りの３問は40％台でした。誤答は，目立つ単語が本文と選択肢に共通して使用されている場合など，いずれも解答者が間違いやすい選択肢に集中していました。［ 8 ］は，選択肢③（家の中全体の床が堅い）に誤答が集中していました。本文中で“hard-surfaced”「表面が堅い」のはトイレだけになっています。［ 10 ］は，本文中のFAQの回答に“preference”という語が使用されているため，同じ語が含まれる選択肢④を選んだ人が多くみられました。じっくりと本文や選択肢の内容を確認し，正答できるよう努めましょう。

Ⅲ

■出題のねらい

2015年に行われた東京マラソンのセキュリティーについて述べた英字新聞記事からの抜粋です。英語の基本的な語彙力，文法力だけではなく，理系に重要な数値の正確な把握を含んだ読解力を問う問題となっています。

■採点講評

11 ，14 の正答率が低く，いずれも約20％でした。11 の選択肢は，文法的な視点では消去できないものもありますが，意味的に最も適切なのは③です。14 は本文中の数値をスキャニングする問題なので，その数値の周辺の内容のみ正確に把握すれば正答を得られるはずです。

Ⅳ

■出題のねらい

建設現場で働く女性たちの現状と将来に関して紹介した英字新聞記事が素材となっています。このような長文を理解するためには「拾い読み」と「流し読み」をうまく融合しなければいけません。最初に全体を「流し読み」してテーマを理解し，次に，問題で問われているところを「拾い読み」していくことで，より正確に解答することができます。全体を「流し読み」した後，26 では数字を手掛かりに本文の関連個所を素早く探し出し，前後を読むとよいでしょう。このような読み方が「拾い読み」です。この長文ではこれらの読み方ができていないと，解答に時間を取られたうえ，正答に達するのが困難となります。

■採点講評

半数以上の受験者が50%以上の正答率なので，長文問題としては概ねよい結果でした。ただし，語彙力・文法力の差が明解に影響を与える問題もありました。19 は選択肢②が正答ですが，①を選択した人がほぼ同じ割合でした。本文中では“one of the female workers”「女性労働者の一人」で，選択肢は“the only woman”「唯一の女性」なので，まったく内容が異なります。20 の日本語訳問題は，“on any day”「どの日も」という本文に対して，「～する日もある」の意の選択肢③を選んだ人が最も多く，正答率はわずか25％でした。次いで正答率の低かった問題は 25 です。これは語彙や文法力というよりも，企業が行っている女性向けサービスとその企業名を正しくマッチさせる根気強い内容点検が必要になる問題です。長文の読解には，こうした英語以外の要素も重要になる場合があります。

V

■出題のねらい

（1）は，基本的な構文力と文法力を問う問題です。ただし，文脈を考慮しなければ正答にはたどりつけないので，注意が必要です。（2）は，英文全体の内容が把握できているかどうかを問う問題です。「妖怪」という皆さんにも馴染みのあるテーマですが，本文をじっくり読んで解答しましょう。

■採点講評

基本的な 28 の正答率が約40%と最も低かったです。おそらく，“are”の後に“afraid”をつないでしまったため不正答になったと推測されます。正確に文脈を捕らえて，正しい構文にたどりつくよう心掛けましょう。

該当部分の正しい語の並び方は，次のようになります。

1） ③regard ⑤*yokai* ②as a form of ④entertainment

2） ②no longer ④needed ③to explain ①the mysteries

3） ④familiar ①to people ③in many countries ⑤far from

国語

講評

Ⅰ

出典　津堅信之『日本のアニメは何がすごいのか』、祥伝社、2014年

アニメという受験者にとって身近なテーマであり、取り組みやすかったと思いますが、筆者の意図からはずれて解答した答案もありました。客観的に読む訓練をするようにしましょう。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は1～7）

「象徴」を「象微」、「定義」を「定議」と書くなどの誤答が見られました。繰り返し練習するようにしましょう。

問2【空欄補充問題】（解答番号は8～10）

空欄［　Ⅰ　］は既にあることを述べているので正答は③、空欄［　Ⅱ　］は、放映だけでなく、字幕もという文脈なので正答は⑥、空欄［　Ⅲ　］は前文をまとめているので正答は⑤となります。正答率は52％でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は11）

問題文2頁にある「この点」から始まる段落に注目することが必要です。正答は④です。正答率は52％でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は12）

正答は⑥です。設問個所の次段落の内容を踏まえる必要があります。正答率は43％でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は13）

正答は④です。空欄［　イ　］を含む文をよく読む必要があります。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は14）

指示詞の問題です。直前の段落内容だけを指しているのではなく、海外のアニメファンが、アニメにのめり込んだ背景とweb上に違法アップロードする背景を押さえる必要があります。正答は⑤です。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は15）

次段落の内容から、日本のアニメファンが用語を使い分けていることがわかり、その使い分けは一般人とは異なることがわかります。正答は⑦です。正答率は60％でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は16）

傍線部Cを含む段落を押さえれば③が正答となります。正答率は42％でした。

問９【内容合致問題】（解答番号は17）

正答は④・⑥です。各選択肢の間違いは以下のとおりです。①マスメディアの影響もあり、一般世間の中に入り込む、②背景にヤングアダルト向けのアニメの影響がある、③ファミリーコーナーのみに置かれている、⑤行為を後押ししているとは言えない、⑦分類することを止める議論が活発に行われるようになっている、⑧日本と全く同じ理由からそれらの語を使い分けているという事実、それぞれが本文にはありません。正答率は46％でした。

Ⅱ

出典　山脇直司『公共哲学とは何か』、筑摩書房、2004年

「個人を活かしつつ公共性を開花させる道筋」を根源から問う公共哲学に関する啓蒙書です。論旨は明快ですが、専門用語もあり、やや取り組みにくい内容の文章だったかもしれません。

問１【漢字の書き取り問題】（解答番号は18～22）

正確に書けている解答は少なく、全問正答した受験者の割合は全体の２％でした。

問２【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は23・24）

空欄［甲］は宣伝などと同じく、自分の都合で主張する言葉が入ります。空欄［乙］は直前の「古典的な自然法をベースに」がヒントです。正答率はそれぞれ32％、54％でした。

問３【空欄補充問題・本文全体の文意から適当な言葉を選ぶ】（解答番号は25）

公共哲学はアメリカの社会科学界にあまり影響を与えなかったということ、公共哲学は超歴史的な理論ではないことを踏まえれば正答の⑤を導けるでしょう。正答率は39％でした。

問４【言葉の意味を答える問題】（解答番号は26）

日常的に用いられる言葉ですから、難しい問題ではありません。正答率は59％でした。

問５【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は27）

11頁の後ろから14行目以下で公共哲学がどのような学問かの説明がなされています。ここの記述をよく読めば、⑥が正答であることは導けます。正答率は４％でした。

問６【内容を理解して該当しないものを選択する問題】（解答番号は28）

誤答として⑥が多かったですが、11頁の後ろから７行目を読めば誤答であることは明らかです。正答率は33％でした。

問７【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は29）

傍線部Ｄの個所を含む段落の２つ先の段落を読めば正答は自明です。正答率は61％でした。

問８【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

多数の受験者が②を選択していましたが、「各学問分野間の相関関係を踏まえて」というような説明は本文には出てきません。正答率は19％でした。

問９【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

傍線部Ｆに続く文を読めば正答はすぐにわかるはずです。正答率は67％でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は32）

本文の記述を正確に読み取ってさえいれば難しくない問題です。正答率は67％でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は33）

まず、約半数の受験者が選んでいた通り、⑧が正答であることは本文の記述を一読すればわかるでしょう。もう１つの正答の⑨を選んだ受験者は極端に少なかったです。⑨の後半部の記述が本文に合致していることは、本文を丹念に読めばわかるはずです。誤答として④を選択した受験者が目立ちました。ここでの原因を求めたのはベラー達ではなく著者です。①・②を選択する受験者も散見されましたが、①は「普遍的な理念にもとづき」が、②は「現代的な意義を失って」が本文の内容に合致しません。正答率は完答ということもあって２％でした。